鹿児島県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	90点
問題構成	大問５題構成。漢字（行書の知識を含む）・論説文・古文・小説文・作文。 [１]は漢字（行書の知識）14点。漢字６問（同音異義語・同訓異字の選択問題を含む）と行書の特徴の問題１問。大問の正答率は74.5％ [２]は論説文26点。出典（『読めば分かるは当たり前？』犬塚美輪）。記述式は20字以内が1問と80字以内が1問。大問の正答率は42.8% [３]は古文13点。出典（『伊曾保物語』）。記述式は10字以内が１問。大問の正答率は54.3％ [４]は小説文21点。出典（『かわせみのみちくさ』瀧羽麻子）。記述式は15字以内が1問と70字以内が１問。大問の正答率は42.0％ [５]は作文16点。８行160字。話し合いをもとにした選択式問題や、発表の構成についての並べ替えの問題が出題。鹿児島県の産業の活性化へ向けて広報の方法について意見を述べる問題が出題。大問の正答率は51.5％		

	令和８年度(2026)	令和７年度(2025)	令和６年度(2024)	令和５年度(2023)	令和４年度(2022)
問題量（Ａ４で）	10ページ分	10ページ分	10ページ分	10ページ分	7ページ分
小問数	26問	27問	26問	25問	26問
論述問題の数	６問	５問	６問	６問	６問
論述問題配点	36点	30点	34点	35点	33点
受験者平均点	45.7点	54.4点	54.9点	51.1点	57.8点

【出題の傾向と対策】

① [１]の漢字に関して、今年度も同音異義語や同訓異字の選択問題が出題。

R８[１]
２　次の―線部のカタカナを漢字で書くとき、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
⑴　風にあおられてタイセイをくずす。　ア 大勢　イ 体制　ウ 体勢　エ 大成
⑵　課題の解決をハカる。　ア 諮　イ 図　ウ 計　エ 測
★この問題の正答率は、81.5％と68.5％であった。漢字の意味まで含めた理解が必要である。

② [２]の論説文に関して、文章の主題をまとめる問題が出題。文章全体の内容把握とともに、会話の流れをもとにしてまとめる力が必要。説明文の最後の記号問題でも文章全体の論理の展開の理解が必要であった。また、毎年長文の記述が出題される。問題文中にある表現を抜き出し、つなげるだけでなく、文章を読み取って理解した内容を自分の言葉で分かりやすく表現する力が問われる。

R８[２]
５　次は、この文章を読んだあとの、先生と山田さんたちの会話です。空欄に入る内容を、八十字以内で補い、会話を完成させなさい。
山田さん「筆者は本文で物語の読解について、ゲリグの「旅」の比喩を引用していたね。」
原口さん「そうだね。物語を読むことには、旅と同じような効果があると述べていたね。」
山田さん「つまり筆者は、[　　]と考えているんだね。」
大山さん「比喩が用いられていることで、筆者の考えがよりわかりやすく理解できましたね。」
★長文記述問題。正答率は23.0％と昨年までと同様に難易度は高い。表現の効果に着目し、文章の内容を正確に理解する力を見られている。

③[３]の古文に関して、会話文形式の空欄補充や、資料と比較をして解く問題が多い傾向にあるため、資料の確認が必要。古文単語を知っていればすぐにわかる問題もあり、日頃から重要古語の暗記が必要。

R８[３]
２　―線部①「この由を見て」とありますが、家の主は何を見たのですか。次の文の空欄に十字以内の現代語を補い、文を完成させなさい。
修行者が[　　]、手足をあたためたり、飯をさましたりしている様子。
★鹿児島県の公立入試の古文で頻出の空欄補充問題。正答率は43.7%。語注を手がかりに、本文のながれを理解し、空欄前後の文脈に注目しながら解くと良い。

④ [４]の小説文に関して、登場人物の人物像や主人公の気持ち、行動の理由を問う問題が出題されるため、登場人物の行動から心情を読み取り、状況をおさえていく練習が必要。

R８[４]
１　＝線部「たしなめたり」について、ここでの意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア　はぐらかしたり　　イ　うらやんだり
ウ　皮肉を言ったり　　エ　注意を与えたり

４　林さんは、千春に起きた心情の変化について、ノートにまとめました。次の【ノートの一部】の空欄に入る内容を、七十字以内で考えて書きなさい。
【ノートの一部】
祖母の考えを聞く前
（中略）
↓
祖母の考えを聞いた後
[　　]と考えはじめている。
★小問１の正答率は10.6%。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を考えることが重要。小問４の正答率は30.5%。本文をそのまま抜き出すだけでなく、登場人物の心情が行動や会話、情景を通して暗示的に表現される場合もあるため、細部の描写にも注目する必要がある。

⑤ [５]の作文に関して、近年資料読み取りの問題が出題されるため、資料を読み取る速さ、自分の意見などをまとめる力が必要。

R８[５]
３　話し合いの結果、発表の構成はどのように変わりましたか。発表内容の①～⑤を正しく並べ替えて答えなさい。

４　―線部③の「認知度を上げる取り組み」について、前田さんたちは話し合って、広報の方法について次の案を出しました。これらの案に基づいて、あなたならどのような具体的な取り組みを提案しますか。あとの(1)～(3)の条件に従って書きなさい。

【前田さんたちの案】
A　販売している店の店頭での広報　　B　SNSでの広報　　C　各種イベントでの広報
D　新聞・雑誌での広報　　E　県の広報誌・県ウェブサイトでの広報
★H30より作文が別の大問になっていて、資料読み取りがある。昨年度より作文以外の小問が出題されているが、今年度は小問３の話の構成を工夫する問題の正答率が32.3%と最も低かった。作文において今年度の正答率は51.0%と、昨年度よりも高くなっていた。

解答

R７[１]　２(1) ウ　(2) イ
[２]　５ (例) 人は物語を読み、移入し同一化することによって、現実世界では経験できない状況や感情を物語の世界で体験し、心を強く動かされ、考え方が変化し、成長することができる
[３]　２(例)自分の息を吹きかけて
[４]　１　エ
４ (例)将来の夢や目標を無理やり決めなくても、悩んだり、予定外の体験をしたりしながら、経験を積み重ねていくことが自分の将来につながっていくだろう
[５]　３④→①→③→②→⑤　４ 省略

※解答は県発表の標準解答に拠る